

**TOWER RECORDS presents ECM SA-CD HYBRID SELECTION SPECIAL ISSUE
キース・ジャレット「サンベア・コンサート」(6枚組)を完全限定 900 セットでリリース
菅野冲彦氏による伝説的な録音、記念碑的な公演から 41 年の時を経て、最上質の音で蘇る!**

タワーレコードでは、ユニバーサル ミュージック合同会社の協力の下、ドイツの名門レーベル ECM Records の傑作アルバムを世界で初めて SA-CD 化し、完全限定プレス作品としてタワーレコード限定にて発売する大人気シリーズ企画「TOWER RECORDS presents ECM SA-CD HYBRID SELECTION」の特別リリースとして、キース・ジャレットのソロ・ピアノ・ライブ『サンベア・コンサート』を、6枚組 SA-CD として、900 セットのシリアルナンバー（愛蔵家ナンバー）入り完全限定プレスで、11月1日（水）にタワーレコード全店（TOWERmini、オンライン含む）にて限定発売します。

今作でも、シリーズ総監修をオーディオ、音楽評論における第一人者の和田博巳氏、作品解説をライター/ジャーナリストの原田和典氏が担当。シリーズ初のボックス・セットということでプレミアム感もあり、2017年、「JAZZ100周年」にふさわしい大型リリースとして、タワーレコード全店およびタワーレコード オンラインにて取り組んでいきます。

■ ECM SA-CD HYBRID SELECTION の特徴

- ・世界初、SA-CD 化音源
- ・SA-CD 層は“オリジナル・アナログ・マスターテープから、今回の発売のために制作した 2017 年最新 DSD マスター”を使用し、ECM 自ら最新マスタリング
- ・ECM の監修の下、新マスタリングを担当したのはキース・ジャレットの諸作にかかわってきたエンジニア、クリストフ・スティッケル（キース・ジャレット/ チャーリー・ヘイデン『ジャズミン』、同『ラスト・ダンス』 etc）

*本作「サンベア・コンサート」は、菅野冲彦氏のオリジナル解説も特別収録

レーベル創設者マンフレート・アイヒャーの音へのこだわりは半端ではありません。それゆえ、ECM は CD が誕生した際にのみ新たにマスターを制作しましたが、以降様々なフォーマットのディスクが誕生しても新たにマスターを制作したことはありませんでした（一部、国内盤 SHM 仕様 CD 発売時に許可が出た事があるのみ。 ※マスター変更はなし）。実現困難と言われた EMC オリジナル・アナログ・マスターから DSD へのフラット・トランスファーは、ECM 自らが最新マスタリングを施し、タワーレコードの限定企画盤として初めてシリーズ化されました。尚、CD 層は従来マスターとなります。

※SA-CD ハイブリッド盤は通常の CD プレイヤーでも再生可能です。

TOWER RECORDS presents ECM SA-CD HYBRID SELECTION SPECIAL ISSUE



アーティスト：キース・ジャレット

タイトル：サンベア・コンサート

仕様：6枚組 SA-CD 完全限定 900 セット

シリアルナンバー（愛蔵家ナンバー）入り

（収録内容は 2 ページ目をご覧ください）

発売日：2017年11月1日（水）

価格：13,000 円+税

取扱店舗：タワーレコード全店、TOWERmini 全店、
タワーレコード オンライン

企画・販売：タワーレコード株式会社

制作・発売：ユニバーサル ミュージック合同会社

タワーレコード オンライン内商品ページ

http://tower.jp/article/feature_item/2017/09/11/0101

■ 「ECM SA-CD HYBRID SELECTION SPECIAL ISSUE」 作品詳細

キース・ジャレット「サンベア・コンサート」

1976年11月に日本でソロ・ピアノ・コンサート・ツアーを行った際の5都市のパフォーマンスを収録し、'78年に10枚組LP仕様というレーベル史上最大級のセット・フォーマットでリリースされたソロ・ピアノ・ライブ盤。タイトルの“サンベア”は北海道に生息するヒグマの“ヒ（日、陽）”と“クマ（熊）”の直訳英語表記からきています。

内容は、LP時代は京都（11月5日）、大阪（11月8日）、名古屋（11月12日）、東京（11月14日）、札幌（11月18日）の全5日のパフォーマンスをそれぞれLP2枚分（4面分）×5セットで収録した10枚組でしたが、'90年の初CD化時に各公演をそれぞれCD1枚分×5で収録し、そこに札幌、東京、名古屋のアンコール曲を収録したディスク6を加えた6枚組となりました。楽曲はすべてキース・ジャレットの即興演奏によるもので、長尺で変化に富み、次々と繰り出されるフレーズはイマジネーションに満ち、70年代の日本でのキース・ジャレットのソロ・ピアノ演奏の最高の瞬間をとらえており、それが名盤と語り継がれる所以です。この日本公演のプロデューサーは、マンフレート・アイヒャー自らが務めています。

特記すべきは、この時の録音を担当したエンジニアが、オーディオ評論家としても名高い菅野冲彦氏であるということ。ちなみに、本アルバム・タイトルはキース・ジャレット、マンフレート・アイヒャーの両人と菅野氏の談笑の中から生まれました。

菅野冲彦氏によるこの伝説的な録音は、オーディオファイルにとって必聴の音源。記念碑的な公演から41年の時を経て、最上質の音で蘇ります。

収録内容

ディスク1:

1. 京都 1976年11月5日(京都会館ホール) パート 1
2. 京都 1976年11月5日(京都会館ホール) パート 2

ディスク2:

1. 大阪 1976年11月8日(大阪サンケイホール) パート 1
2. 大阪 1976年11月8日(大阪サンケイホール) パート 2

ディスク3:

1. 名古屋 1976年11月12日(愛知文化講堂) パート 1
2. 名古屋 1976年11月12日(愛知文化講堂) パート 2

ディスク4:

1. 東京 1976年11月14日(中野サンプラザホール) パート 1
2. 東京 1976年11月14日(中野サンプラザホール) パート 2

ディスク5:

1. 札幌 1976年11月18日(札幌厚生年金ホール) パート 1
2. 札幌 1976年11月18日(札幌厚生年金ホール) パート 2

ディスク6:

1. アンコール 札幌
2. アンコール 東京
3. アンコール 名古屋

シリーズ監修者、ライナー執筆者紹介:

* 監修、試聴ポイント解説: 和田博巳氏 (オーディオ評論家)

主な執筆媒体: Stereo Sound、HiVi、Digi Fi、Bestsound 等

* 作品解説: 原田和典氏 (ライター/ジャーナリスト)

主な執筆媒体: JAZZ JAPAN、ミュージック・マガジン等

* 特別収録 オリジナル解説: 菅野冲彦氏 (オーディオ評論家)